SUSTAINABLE GALS DEVELOPMENT GALS



































SDGsとは

「SDGs (エスディージーズ)」とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された,2030年までに持続可能 (人間が地球に住み続けることができる) でよりよい世界を目指す、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓った国際社会共通の目標です。

国際連合とは

国際連合(国連)は第二次世界大戦直後の1945年に目的達成のために協力を誓った独立国家が集まり設立された、国際平和と安全の維持(安全保障)、経済・社会・文化などに関する国際協力の実現をおもな目的とする普遍的な平和機構です。※加盟国数は193国(世界の国の数は196)





国際連合(国連)の旗 / 公式印章

オリーブの木の枝を交差させた輪に内接された、北極を中心とした正距方位図法を表す世界地図。

オリーブの枝は平和の象徴であり、世界地図は世界 の全ての人と国を表している。



JSTS-D

Japan Sustainable Tourism Standard for Destination

コロナ以前問題となっていたオーバーツーリズムや新型コロナウイルス感染症の流行への対策を取るべく、自治体やDMOなどの地域が持続可能な観光地マネジメントを行えるよう、国際基準に準拠した観光指標を提示したもの。

小豆島町が「世界の持続可能な観光地TOPIOO選」 に2年連続で選出されました。※日本国内で10地域が選出



「世界の持続可能な観光地TOP100選(以下、TOP100選)」とは、国際認証の公式認証機関であるオランダの非営利団体グリーン・デスティネーションズが、持続可能な観光の国際基準を取り入れ、より良い地域づくりに努力している地域を毎年選出しているものです。エントリーには、持続可能な観光に関する100項目にわたる国際基準のうち、景観保全や文化財の保護、エネルギー消費量の削減など、特に重要な15項目の指標をクリアしていること、さらに、地域の優れた取組事例「グッド・プラクティス・ストーリー」の存在が必要になります。

世界に認められた小豆島町の「グッド・プラクティス・ストーリー」

2021年 中山千枚田の保全活動 2021年 郷土愛に守られた寒霞渓

2022年 オリーブを核とした地域振興

日本のオリーブ栽培発祥の地として、栽培面積及び収穫量共にトップランナーである小豆島。オリーブは島内における食品産業の基盤となっているだけでなく、「観光の島小豆島」の特徴的な地域資源であり、地域社会に欠かすことのできない存在となっています。

高度経済成長期における安価な外国産オリーブ製品の需要の高まりなどにより、小豆島産オリーブの栽培面積及び収穫量は一時激減するも、地域資源であるオリーブを守ろうという気運の高まりから、行政・企業・住民が一体となって努力してきました。元々国の栽培試験圃場地であった場所や周辺の荒廃農地も併せて整備した小豆島オリーブ公園は、オリーブ栽培農園の役割を果たすほか、年間38万人(令和元年入込客数)を超える観光客が訪れる島内随一の主要観光地となり、小豆島オリーブの魅力を国内外に発信する拠点となっています。

更には2003年、「構造改革特区」第1号として「オリーブ振興特区」となったことを契機に島内の様々な企業がオリーブ栽培に参入。多くの荒廃農地がオリーブ園地へと活用されました。その結果、2010年には栽培面積が、2017年には収穫量が過去最高を更新しました。

オリーブ植栽100周年となる2008年、小豆島町は日本で唯一となるオリーブ課を設置。その頃より始まった他産地の市場参入により、品質の差別化や高付加価値化を求められるようになりました。そこで、主要施策として「小豆島オリーブトップワンプロジェクト」を立ち上げ、官民一体となって、小豆島がこれからも日本オリーブのトップランナーであり続けるため、「研究開発」「人材育成」「高付加価値化」「イメージ戦略」の4つを柱に様々な事業に取り組んでいます。特に、地域へのオリーブの魅力発信を重要視しており、町内の小中学校や病院の給食にエキストラバージンオリーブオイルを使用したり、出産、結婚、転入など、人生の節目に町からオリーブの苗木をプレゼントしたりするなど、オリーブが当たり前にある生活環境を整えることで、小豆島オリーブに対する誇りを醸成し、次世代のオリーブ産業の担い手の育成や鳥全体のイメージアップに繋げています。

植栽当初から一つ一つ手摘みで収穫される小豆島オリーブの特徴は、数々の国際的なオリーブオイル品評会で高評価を得るほどの高い品質と、オリーブのあらゆる可能性に着目した機能性にあります。通常捨てられてしまう搾油後の残渣は乾燥させ、オリーブ牛の飼料に、剪定した枝葉は粉砕して発酵させ、新たなオリーブを育てる肥料へと生まれ変わるなど、循環型農業の流れも形成されつつあります。

近年、人々の健康志向の向上に伴い、日本でも言わずと知れたオリーブですが、私たちは、オリーブが「見知らぬ木」であった時代から向き合い、育て、寄り添ってきました。小豆島の100年は、日本のオリーブの歴史でもあります。この先100年も「オリーブのある美しい景色」後世を残すため、日本のオリーブ栽培発祥の地として他産地を先導する「トップワン」であり続け、オリーブを核とした持続可能な地域づくりに取り組んでいきます。

道の駅 小豆島オリープ公園

持続可能な社会の実現のために『小豆島』で『私たち』が出来ること



平和の象徴として、国際連合の旗にも描かれているオリーブ。 豊かな自然、アート、そして何百年もの歴史を紡ぐ文化と産業が共存する 日本オリーブ栽培発祥の地『小豆島』のSDGs

関連の高いSDGsテーマ



すべての人に 健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人 の健康的な生活を確保し、 福祉を推進する

関連の高いESDテーマ 文部科学省 学習指導要網におけるESD関連記述

【高校生保健体育保健】社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深く関わっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関わる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。

小豆島町での取り組み

オリーブによる健康・長寿の島づくりの施策として『オリーブ』が健康に効果的であることを医学的なエビデンスに基づき学校給食・病院食での使用(普及)し子供たちの未来の健康、島民への健康・長寿、医療・介護の負担軽減を目指しています。

道の駅小豆島オリーブ公園での取り組み

年間30~50のオリーブの振興・啓蒙を目的としたイベント(料理教室等)を開催しています。



関連の高いSDGsテーマ



質の高い教育を みんなに

すべての人に包摂的(※)かつ 公平で質の高い教育を提供し、 生涯学習の機会を促進する

道の駅小豆島オリーブ公園での取り組み

小・中学校でのオリーブ出前授業や小・中・高校での収穫体験、島外からの学生・就農体験希望者の受け入れを実施しています。

関連の高いSDGsテーマ



陸の豊かさを守ろう

陸上生態系の保護、回復お よび持続可能な利用の促進、 森林の持続可能な管理、砂 漠化への対処、土地劣化の 阻止および逆転、ならびに生 物多様性損失の阻止を図る

関連の高いESDテーマ

文部科学省 学習指導要綱 におけるESD関連記述

【中学生社会地理的分野】地域の環境問題や環境保全の取組を中核と して、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社 会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどにつ いて考える。

道の駅小豆島オリーブ公園での取り組み

毎年発生する剪定枝や葉っぱを堆肥化する取り組みを2012年から始めています。剪定枝を細かく粉 砕し、発酵させ、更に1年間熟成させたものをオリーブとハーブの育成に役立てています。

小豆島での取り組み

小豆島ではオリーブの『果実・オイル』『枝・葉』『花』『搾油後の搾りかす』までも有効活用しています。 オリーブは食品としてだけでなく、観光資源としても大きな役割を担っています。



オリーブの果実 から搾油した 食用オリーブオイル



オリーブの果実 (オイル)を使用した 化粧品



オリーブの果実 (オイル)を使用した 加工品



オリーブの果実の搾りかす (オイルを搾った後)を飼料 に混ぜ飼育した オリーブ牛・豚・地雞



オリーブの花 ちりばめた アクセサリー



オリーブの花酵母 で仕込んだ



オリーブの葉の粉末 を添加したエサを規定の 回数与えて飼育した オリーブハマチ



オリーブの剪定枝 を使用した オリーブの冠

道の駅小豆島オリーブ公園で作られた『オリーブの 冠』は東京マラソン・大阪マラソン・大阪国際女子 マラソン・別府大分毎日マラソン・マラソングランド チャンピオンシップ等の勝者にも贈られています。



オリーブの葉 を使用した オリーブ茶



オリーブの葉の粉末 を使用した オリーブソフトクリーム

オリーブの剪定枝で作った 堆肥で、オリーブを育てる。 循環型の農業を目指しています。

小豆島オリーブ公園では約2000本のオリーブを栽培しており、毎年 剪定の際に出る大量の剪定枝の処分方法に長年悩まされてきました。 そこで、2012年に剪定枝を堆肥化する取り組みをはじめました。

はじめに剪定枝を粉砕してチップ化し、発酵させ、その後1年間熟成 します。そうしてできた堆肥をオリーブの育成に利用。副産物をリサイクル することで、環境にやさしい農業を推進しています。



従来の剪定枝の 処分方法





毎年2~3月に剪定



剪定枝を堆肥化する 循環型農業





シートを利用して 発酵させる



OLIVA GRACE」は、土の力を高めます。

- オリーブの木の剪定枝を発酵させ、その後1年間かけて熟成させているので
- 土の団粒化を促すことにより、適度な保水性を持たせるとともに
- オリーブはもちろん花や木、野菜やハーブなど に幅広くお使いいただけます。





SDGsツアーの造成



〒761-4434 香川県小豆郡小豆島町西村甲1941-1 営業時間 8:30-17:00(年中無休)

TEL: 0879-82-2200 FAX: 0879-82-2215

E-Mail: info@olive-pk.jp

オリーブの保護育成と普及振興を基本理念とする『一般財団法人小豆島オリーブ公園』が香川県・小豆島町の指定管理を受け運営する道の駅。瀬戸内海を見下ろす小高い丘に、約2,000本のオリーブ畑が広がり、園内には、オリーブの歴史に触れることができるオリーブ記念館、まるで地中海を思わせるギリシャ風車、約120種類のハーブを栽培する『花と香りのガーデン』など、オリーブとハーブを五感で楽しむことができます。

道の駅小豆島オリーブ公園 体験

体験時間:25分(100円)

+ 観光・お買い物 (30分)



オリーブの歴史に触れながらオリーブの丘散策

※到着時の園内説明(3分)+オリーブ物語と取組み(3分)対応も可能

無料





内容

オリーブ公園園内(ギリシャ風車やオリーブ畑)を散策、オリーブに触れながら、オリーブの歴史や小豆島・オリーブ公園での取り組み(道の駅小豆島オリーブ公園が伝えたいこと総括)をお話しさせていただきます。

道の駅小豆島オリーブ公園が伝えたいこと

【伝えたいこと① 小豆島オリーブの始まりの歴史】

小豆島に初めてオリーブがやってきたのは明治41年(1908年)今年(2021年)で113年を迎えます。

日露戦争後に日本は海域を広げ、遠洋漁業で獲れた魚介を保存する良質な国産オリーブオイルが作るため、 三重県、鹿児島県、香川県の小豆島の3か所でオリーブの試験栽培を始めました。他の地域が木の成長に伸 び悩み栽培を断念する中、小豆島の西村地区に植えたオリーブだけが順調に育ち、小豆島が日本におけるオ リーブ栽培発祥の地といわれるようになりました。昭和29年には香川県花、昭和42年には香川県木にも指 定されています。

【伝えたいこと② 小豆島のオリーブ栽培・収穫量】

2020年オリーブ収穫量は399 t 栽培面積は145ha (東京ドーム約31個分)

【伝えたいこと③ 小豆島にとってオリーブとは】

【1】沢山のお仕事(雇用)を生み出しています。

現在、小豆島でオリーブ栽培・販売をしている会社は約40社。オリーブの加工品(お菓子やドレッシング等)を作っている会社を含めるともっともっと沢山存在します。

【オリーブは何に使われているの?】

□オリーブの葉・・・オリーブ茶・オリーブソフトクリーム・お菓子・・オリーブ染めもの・オリーブリース (日本で行なわれている国際マラソンの勝者にオリーブ公園からオリーブの冠が贈られています)・オリーブハマチの餌等 □オリーブ果実・・・オイル・新漬け・ドレッシングやお菓子等の加工品・ハンドクリーム等の化粧品・搾りかすはオリーブ牛・オリーブ豚の餌等 □オリーブ枝・木・アクセサリー・お箸等・・・訪れた先のお土産店でも探してみましょう。

【2】観光資源・たくさんの観光客が訪れる要素になっています。

現在、観光は厳しい状況が続いていますが、2019年には推定1,174,000人が小豆島を訪れ、日本の離島(島)で最も多くの観光客が訪れた島になりました。醤油・素麺・佃煮、そして『オリーブ』地域の食材は観光にも深く係わっているのです。

【3】オリーブの振興・啓蒙、知ってもらうための取り組み

の収穫体験、島外からの学生・就農体験希望者の受け入れを実施しています。

□小豆島のこどもたちの未来の健康のために平成24年から学校給食でオリーブオイルを使用しています。
※血液検査等の健康的効果の検証も実施しています。□オリーブ検定(オリーブ知識を深める)を平成20年から実施しています。これまでに約1,500名が受験しています。□オリーブ植栽計画として、小学校入学・結婚・出産・移住の記念としてオリーブの苗木が贈られています。※年間で毎年約350本程度贈られています。小豆島の子供たちは、学校・通学路・お家等いつでもどこでもオリーブを身近に感じています。□小学校ではオリーブ講義や枝を使ったモノづくり体験、中学では剪定実地等を実施。自分たちで収穫したオリーブを学校給食に使用し地産地消を学んでいます。□道の駅小豆島オリーブ公園では年間30~50のオリーブの振興・啓蒙を目的としたイベント(教室)を開催しています。□オリーブの収穫体験等で学生の受け入れを実施。オリーブ公園では、オリーブ就農体験等を実施しています。□毎年発生する剪定枝や葉っぱを堆肥化する取り組みを2012年から始めています。剪定枝を細かく粉砕し、発酵させ、更に1年間熟成させたものをオリーブとハーブの育成に役立てています。□小・中学校でのオリーブ出前授業や小・中・高校で

道の駅小豆島オリーブ公園 体験



幸せのオリーブの葉の栞づくり体験

ガイドなし(自由散策:体験)の場合は120円となります。

ガイド付き体験時間:45分(200円)

+ 観光・お買い物 (30分)



平和を象徴するシンボル

旧約聖書の『創世記』では、ノアの方舟から放たれたハトがオ リーブの枝をくわえて戻り、神の罰である洪水が終わったことを 知らせます。このことにより、「オリーブ」と「ハト」は、神と 人間の和解のシンボル、人間が神との和解によって得た平和な世 界を共に築いていく、平和を象徴するシンボルとされています。





当園の係が『ハートのオリーブの葉』が見つかり易いスポットにご 案内し、一緒に探します。

※オリーブ記念館から徒歩5分の場所になります。

※【I】オリーブの歴史に触れながらオリーブの丘散策とのセット 体験をおすすめいたします。

※1枚見つけた人は『幸せのおすそ分け』として、まだ見つけるこ とができていない人の葉を協力し探すよう促します。(スタッフと 参加者の協力により、100%の確率で見つけることができます)



オリーブ記念館ホールに移動しラミネートで栞を作成します。 ※栞は11種類から各自選んでいただくことができます。

※校章・校訓を入れたオリジナル栞の作成も可能です 栞代金(150円)/ガイド付き体験(200円)

:ロット100枚以上(余裕を持ってお申し込み下さい)























